令和5年度　足羽高等学校　学校評価書

項目	具体的取組	成果と課題	改善策・向上策
1 教育課程 学習支援 （教務部）	a　ICT機器を積極的に活用し、授業改善を実践する。 b　生徒の学習状況について、教科担任とクラス担任が情報を共有し、指導を行う。	a　公開授業で積極的にICTを活用したり、授業を参観し研究協議会に参加した教員は75%と昨年度から減少した。「ICTの有効活用」については、まだまだ教員間の技術的な活用能力の差が大きい。 b　生徒の学習状況について、教科担任とクラス担任が情報を共有し、指導を行っている割合が83%で、目標の90%には達していない。生徒の日々の家庭学習や試験前学習は89%の生徒が行っている。	・　引き続きICTの積極的な活用にむけ教員全員で取り組んでいく。公開授業でのタブレットの積極的活用や他校の授業参観・研究協議会参加を積極的に行っていき、学校全体としてのレベルアップを図っていく。 ・　一人の生徒をクラス担任・教科担任を含め複数の教員の目で見て、情報を共有し、学習支援していく体制づくりを強化していく。家庭学習の充実に向けては、学習支援アプリ（Google classroom）の積極的な利用を促していく。
2 生徒支援 （生徒指導部）	a　教職員・生徒・保護者の共通理解のもと正しい身なりの徹底を図る。また、交通マナー（特に電車）の向上を図る。 b　生徒会各種委員会や部活動の活性化を図り極的広報活動を行う。またボランティア活動を促す。	a　全教職員が登下校時の交通安全や容儀指導等に継続的に取り組むことができたことで、生徒の制服の着こなしや自転車マナー遵守への意識は少しずつ改善された。（95%以上を目指した結果93%台になり、大きな事故などはなかった。）また教員一人ひとりの容儀・交通安全指導の成果が、教員の目にも成果となって現れている（生徒玄関での教職員指導が徹底し、生徒・教職員の判断の差がなくなってきている94%台）。教職員全体が生徒指導に対して更に今以上に共通理解と共通意識をもち積極的に生徒の更なる意識向上を図っていくことが望まれる。 b　部活動については運動部ではスポーツコースの生徒が中心となり、どの部も活発に活動し、各種大会等でも一定の成果を収めた。男子バスケット部は新人大会では2位に、女子バスケット部は2年連続で全国大会でベスト16入りを果たした。文化部でも美術部・中国語部を中心に成果をあげた。。生徒会各種委員会の活動は、生徒の自主的な活動を促すことにより、全体的に活性化された。後期生徒会は校則の見直しを行うなど積極的な活動がみられた。生徒会や部活動についての取り組みをさらに活性化させるため、引続きタブレット等をさらに活用していく必要がある。	・　制服の着こなし、安全や交通マナー遵守の意識向上のために、これまでと同様に毎日の登下校指導に取り組むとともに、年2回の下校指導を行い、学校生活の中では生徒支援部だけではなく全教職員が生徒への同じ声かけ、同じ指導を徹底させることで、生徒の容儀や交通マナーへの更なる意識向上を図っていく。また、各授業においても、授業前容儀検査を行い、必要な場合は教科担当者から生徒への注意・声かけを行い、その上で必要に応じて生徒支援部との連携によって、よりきめ細かく丁寧な生徒理解・生徒指導を推し進めていく。 ・　生徒の自主的活動を促し、タブレット等を活用して情報収集、発信したりすることにより、生徒会各種委員会活動を一層活性化させる必要がある。各種ボランティア等に関する情報はJRC部中心に生徒にアナウンスすることで、特に部活動をしていない生徒が時間を有効に使い活躍できる場を設けていく。生徒会活動についても活発に活動させる。 ・　部活動や各種委員会活動における生徒の活躍の様子については、本校ホームページ等で情報を発信することで、保護者の理解を深められるような工夫をする。学校のホームページをさらに更新させ、活動をより詳しく外部に周知させる。
3 進路支援 （進路指導部）	a　系統立った進路ガイダンスと進路学習を企画運営し、生徒の意欲を高める b　進路実現に必要な学力を養成するための補習・模擬試験・個別指導を実施し、進路支援体制の強化を図る。	a　1年生7月実施予定の職業体験講座が悪天候のため行えなかったが、生徒が進路を真剣に考えるにあたり重要な行事であるため12月実施にむけ急遽計画し行った。これらの体験学習は2年生12月に行われるバス見学会と同様、生徒の進路意識を高揚するのに重要なものである。9割近くの生徒が意欲的に取り組んでおり、今後より効果のある行事になるよう継続・改善したいと考える。 b　基礎力測定診断テストで基礎力の定着を図り、各種模擬試験で実力を養成できるように事前指導、事後指導を工夫していく必要がある。	・　1年生9月と2年生5月に実施する進路適正検査の結果が、その後自らの進路を選択し実現する意識の向上へと導いていくように指導体制を作る必要がある。また、タブレットやスマートフォンの有効活用により、主体的に効率よく進路研究ができる環境整備をしなければならないと考える。 ・　国語、数学、英語の基礎学力が不足している生徒の割合が普段の授業からうかがえるため、基礎学力を測定するテスト問題の内容や指導のあり方などを再考していく。また、模擬試験前に行っている対策講座が更に効果のあるもになるように工夫する。
4 多文化共生 教育 （教務部）	a　多文化共生講座、国際交流活動、オンライン授業、語学研修により異文化理解を深める。 b　「多文化共生」をテーマにした探究学習により、多文化共生社会の必要性や互いの考え方を認め合う意識を高める。	a　異文化理解を深めるような授業や活動に取り組んだ生徒が85%であった、学校全体で取り組む姉妹校交流活動が行われるようになったことや、総合的な探究の時間での「多文化共生」をテーマにした学びを通して、異文化理解の向上につながったと考えられる。 b　外国人生徒が日本人生徒に受け入れられていると感じているのが81%であるのに対し、日本人生徒が外国人生徒とあいさつしたり会話したりすることがあったと答える生徒が56%と両者に開きがある。外国人生徒が多数在籍しているクラスが偏っており、互いに交流する機会が少なかった。	・　異文化理解を深めるために、総合的な探究の時間等を利用し、留学生、ALTや大学の先生方の協力を仰ぎ、全校生徒が意欲関心を持って取り組めるように事前指導のより一層の充実を図る。 ・　総合的な探究の時間において、クラスを解いたグループづくり等を通して、日本人生徒と外国人生徒が互いに意見や考えを出し合い、交流できる機会をより多く設けていく。
5 保健指導・ 教育相談 （保健渉外部）	a　新型コロナウイルス等の感染症対策として衛生環境を整備するとともに、心身の健康管理に対する意識を高める。 b　クラス担任と教育相談担当、スクールカウンセラーとの連携を密にして教育相談体制をより強化し、積極的に生徒への援助を行う。	a　「生徒の健康に対する関心・意識を持たせることができた」について、A+Bと答えた割合は、教職員、生徒、保護者ともに低下している。新型コロナ感染症が5類に移行し、マスク着用も任意になったことで、感染症への意識が低下したと考えられる。実際に、1月末時点での、インフルエンザによる学級閉鎖は、昨年度は0件だったが、本年度は3件発生しており、うち1件は学年閉鎖となっている。社会全体がコロナ禍以前に戻った今こそ、改めてインフルエンザ等の感染症対策への意欲を高めていく必要がある。 b　「保健室や相談室で心身に関して相談しやすいと感じている。」についてA+Bと答えた生徒は昨年度は79%であったが、本年度は84%と増加し、目標の80%を超えることができた。 一方、「教育相談担当やスクールカウンセラーと連絡を密にすることができた」についてはA+Bと答えた各担任は昨年度は84%であったが、本年度は75%と減少している。	・　日々の健康に関する情報発信のみならず、冬季にはインフルエンザ対策について強調するなどして、新型コロナ感染症の他の感染症も身近に存在していることを生徒、保護者、教職員に周知する。また、5類移行前は、Web上で生徒・教職員の体温等の健康状態の入力を行っていたが、移行後は行っていないため、自己の健康管理への意識を教員と生徒共に高めるための掲示物等を利用して啓発する。また、「体調が悪ければマスクを着用する」などの、「学校で感染を広げないための対策」を改めて周知していく。 ・　生徒に対しては、引き続き「親しみやすい保健室や相談室」を維持していきたい。反面、教育相談やカウンセラーは、担任にとって「保健室や相談室を利用する生徒への対応の相談先」として、十分機能しているとは言えない。そのため、担任に対して校内研修を通じて「担任の相談先としての教育相談、カウンセラー」を改めて周知していきたい。
6 環境美化 ・図書 （保健渉外部）	a　日々の清掃状況を点検・確認し、生徒の清掃・美化に対する意識や態度の向上を図る。学校周辺の環境美化やごみの分別を通して環境保護の意識を高める。 b　「朝読書」を通して読書に親しむ意識を向上させる。	a　「私は、毎日の清掃活動やごみの分別にまじめにとりくんでいる」については、生徒はともに、A+Bの割合が90%以上であるが、「生徒にゴミの分別を徹底させること」については教職員、保護者共にA+Bが90%を下回っている。このことから、「生徒は正しく行っている」と考えているが、大人（教職員、保護者）から見ると、取り組みが不十分であることが推測される。 b　「私は4月から今日まで「朝読書」の時間で2冊以上の本を読み終えた」については、A+Bの割合が一昨年度の42%から昨年度は50%に、本年度は僅かではあるが51%に増加した。しかし、目標の60%には届いていないため、引き続き指導を行っていきたい。一方、1冊の本も読み終えていない」生徒の割合は、一昨年度の33%から昨年度は27%、本年度は24%に減少してきている。	a　「清掃活動やごみの分別にまじめにとりくむこと」という行動が、教職員、保護者の考える「行動」と一致していないと考えられる。そのため、実際の行動が不十分（清掃活動を真面目に行っていない、ゴミの分別がされていない）な生徒に対して、折に触れて適切に指導していく必要がある。また、ゴミの分別については、定期的に点検を行うとともに、全校集会など機会を捉えて具体的な指導・注意を行っていく。また、学校だけでなく家庭や地域でも実行し習慣化し環境への関心が高まるよう指導したい。 b　本年度から、職員室前に置かれていた、新聞4誌のうち2誌を図書館内での閲覧に変更した。また、「絵馬作り」など、季節毎のイベントの企画を行うことで、来館者は増えてきている。今後は、来館者が雑誌だけで無く「書籍」を手に取り、貸し出し数が増加するように展示等を工夫していきたい。
7 PTA活動 （保健渉外部） （教務部）	a　「新しい生活様式」の下での、学校と保護者の連携のために、PTA事業内容の工夫を図る。 b　学校行事など生徒の活動の情報を迅速に発信する。	a　「何らかの形でPTA活動に参加した。」という設問に対しては、A+Bの割合が16%であり昨年よりも1%減少した、「全く参加できなかった」という保護者の割合も43%から52%に増加した。 b　ホームページやPTAメール配信等の学校からの発信に、満足している・おおむね満足している保護者が93%と、昨年度に引き続き評価は高い。	a　本年度から新型コロナ感染症が第5類に変更され、PTA活動の制限がなくなったものの、コロナ禍には行っていた「飲食を伴うような行事」は復活させていない。次年度は保護者の方が参加しやすい「魅力的なPTA行事」を考えていきたい。 b　HPについては、生徒の学校での活動を積極的に発信していく。安心メールは、緊急性の高い内容について今年度同様、迅速正確に発信していく。